

時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

高学年向け 2023年 春号



発行：時津町立時津図書館

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUKO



「読書ってこんなに楽しいの!？」

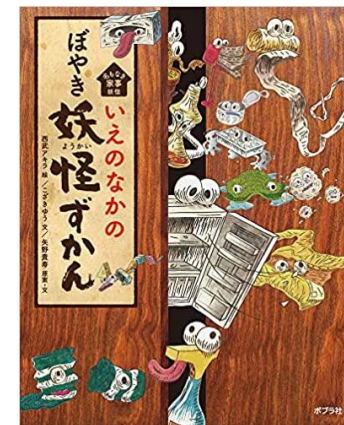
齋藤孝流 著「読書ってこんなに楽しいの!？」

齋藤 孝/著（小学館クリエイティブ）

「読書をしたほうがいいよ」って言われるのは、どうしてなのか君は考えたことがある？これを読めば、大人も納得の答えが！

読書を楽しむための工夫や、読み方、読書感想文の必勝法など盛り沢山の一冊。

ぜひお家の人にも、読んでもらいたいです！



「いへのなかのぼやき妖怪ずかん

名もなき家事妖怪

こざき ゆう/文 西武 アキラ/絵
矢野 貴寿/原案 文（ポプラ社）

「ツカワナイペンダラーケ」「スイトウダサーヌ」。ほたらかしにされた家事妖怪たちは、夜中に集まって「ぼやき会」を開いています。夜中にきこえてくるヒソヒソ声。あなたの家にもぼやき妖怪がいるかも！



「ピースがうちにやってきた」

村上 しいこ/文 相野谷 由起/絵
（さ・え・ら書房）

ある日お母さんがこねこを拾ってきた。ふるえるこねこをお母さんはぎゅっと抱きしめた。サチの心がふるえた。サチは生まれてから一度もお母さんに抱きしめてもらったことがない。お母さんは心の病気。サチは泣きたい気持ちをぐっとこらえた。ずっとこうだった、自分がかまんすればいいんだと言い聞かせてきた。だけど…。

サチはとうとう一歩を踏み出すことにした。



「光るマウスが未来をかえる

おはなしサイエンス 遺伝子工学

森川 成美/作 石井 聖岳/絵（講談社）

ぼくは鍛人。おばあちゃんが、病気になったから「遺伝子治療」というのをするらしい…。メダカでも人間でも、最初の一個の細胞に入っている遺伝子が体の設計図になっている。それから、細胞が設計図どおりに増えていき、体ができる。でも、おばあちゃんは最初の一個の細胞でもないのにどうして？

ぼくは幼なじみの杏奈と専門家に聞いてみることにした。



「ペットボトルでこんなにできる!

ときめく☆クッキング」

寺西 恵里子/作（汐文社）

みんなはジュースやお茶を飲んだ後のペットボトルはどうしてる？きっとすぐにすてちゃうよね。そのペットボトルの容器を使って、わくわくするクッキングに挑戦してみよう！

ふりふりゼリーや手作りバターなど、家族でワイワイ楽しく作ってみてね♪



「アーマのうそ」

キャロル・ライリー・ブリンク/作 谷口 由美子/訳
堀川 理万子/絵（文溪堂）

アーマが友だちに「世界一大きな人形を持っている」と思わずついてしまった「うそ」。小さな「うそ」だったはずが、どんどん大きくなって、とうとう、とんでもないことになってしまった。収穫祭の出し物にアーマの人形が展示されることになったのだ。いまさら「うそ」だとは言えない。最大のピンチ！アーマはうまく乗り越えられるのか？